

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野(2/3)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区(静岡県)	4.1	4.3 進捗度 ・防災・減災機能の充実・強化 98%  ・地域資源を活用した新しい産業の創出・集積 97%  ・新しいライフスタイルの実現の場の創出 128%  ・暮らしを支える基盤の整備 100%	4.2 規制の特例等 ・6次産業化の推進に関する優遇措置の適用要件の緩和 等  財政支援等 ・新東名新富士IC周辺物流拠点創出事業  ・総合特区支援助利子補給金 等  地域独自の取組 ・緊急地震・津波対策交付金(財政支援)  ・新規産業立地事業費助成(財政支援) 等	4.0	<p>・事業自体の重要性に鑑み適切に遂行されていると考える。工業団地、6次産業化拠点施設の整備、防災対策など、おおむね順調に進行していると思われる。移住促進などについても成果が見られている。</p> <p>・多分野において、地域の特性に合わせて、規制の特例措置、財政・税制・金融支援の活用、地域独自の措置を多面的に組み合わせた積極的な取り組みが行われている。</p> <p>・政策推進にあたり、住民への説明や、参画の機会を一層設けることも肝要である。</p> <p>・地域資源を活用した新しい産業の創出・集積に関して、既存の産業集積や食・農といった静岡ならではの資源の一層の活用が望まれる。新規の住宅開発や工場移転だけでなく、空き家・遊休地となるエリアへの取り組みについても継続した検討を期待したい。</p>